78 チョウセンスナガイ　（キバサナギガイ科）　兵庫県ランク：A

Gastrocopta coreana　　環境省ランク：指定なし

種の概要

群馬県、埼玉県、東京都、広島県、愛媛県、大分県、兵庫県などで分布が知られる。広域分布種であるが、非常に飛び地的な分布形態は特徴的である。主に内陸部で確認され、石灰岩地や山地の林床に生息する。殻長2mmほどの円筒形をし、殻質は薄く白色半透である。殻口には複数の襞状の複雑な突起を有し、殻口上方の角状板と壁唇板は融合して中ほどがくぼみ、この左側には下位壁唇板が存在しない。近似種のスナガイは、関東地方から沖縄諸島にかけての黒潮の影響する海岸付近に分布し、チョウセンスナガイに比べてわずかに大きく（殻長2.3mm前後）太く、下位壁唇板が存在することで区別される。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
			△	○	○		○

県内分布

洲本市

県内における生息状況及びその他特記事項

新規追加種。淡路島中部の洲本市で2014年3月に南港ウエットランドグループの和田太一氏によって1個体が確認され、その後の調査で複数個体が確認されたが、生息数は極めて少ない。外海に面した海側縁近くの転石帯において、ハマウドの根元周りなどや石下、打ち上げゴミの下などに生息する。既知のチョウセンスナガイの記録は主に内陸にあり、洲本市のように海浜部、すなわちスナガイの生息環境下での確認例は極めて珍しい事例である。

保護上の留意点

海浜植物群落の生育する転石海浜の存在自体が少なくなっており、護岸工事などによる消失が著しいので、現存する既知産地の海浜環境と群落の維持が重要である。本生息地においては、洪水時に周辺からの大量の人工漂着物が多く、一時的であっても海岸環境に与える影響は大きい。

写真提供：為後智康

写真提供：為後智康

【執筆者】　増田修